

日本語学習教室でスピーチ茶話会が開かれました

佐藤 洋子（日本語教室部会）

10月8日(水)、9日(木)、27日(月)、日本語学習の各教室において、「スピーチ茶話会」が催されました。

スピーチ茶話会の目的は二つ。一つは、今勉強している日本語を使って、クラスメートやボランティア講師達の前でスピーチをして日頃の学習成果を確かめ、さらにステップアップをはかること。もう一つは、スピーチの後でお菓子とお茶やジュースをいただきながらおしゃべりを楽しみ、互いに交流を深めることです。

9日の木曜クラスでは、会は午後6時半から8時まで行われました。初めに、「幸せなら手をたたこう」を皆で歌いながら、互いの手や肩を軽くたたきあったりしてリラックス。そして、いよいよスピーチです。参加学習者は中国、ペルー、ボリビアなどからの8名。担当のボランティア講師が各自の横に座り、見守ります。スピーチのテーマは自由。持ち時間は一人3分ほどです。

「スマホで音楽を聞きながら自転車で走っていたら、お巡りさんに呼び止められて注意されました。危ないから、と。やさしかったです。私の国ではそういうことでお巡りさんから注意されないのが、ビックリしました（笑）。」（ヨ・スユウさん、中国）

「日本はすごく安全。電車の座席で皆よ〜く眠っています（笑）。携帯電話を膝の上に置いたままで、とか。そんなことをしたら、他の国だったらすぐ盗られてしまいますよ。」（マキシム・アンドリゲットさん、フランス）
といったような、日本で驚いたことを語ってくれる人もいれば、

「先生には、運転免許をとる時も車を買う時も、本当にお世話になりました。おかげさまで免許は一発合格（笑）。単なる日本語の先生ではなく、お母さんみたいな人です！」（リュ

ウ・ヤナさん、中国）

と、ボランティア講師との絆を語ってくれる人も。

また、「日本語上達のコツは、勉強目的を持つこと。友達と話すなど、毎日練習すること。アニメやドラマを見る。それと、日本語の音楽を聞くことです。」（オルティリア・ジョナ・リエさん、フィリピン）と、アドバイスをしてくれる人もいました。

とつとつと、でも一生懸命に語ってくれた学習者から、流暢なスピーチの学習者まで、レベルはさまざまですが、日本語学習への熱意はみな同じ。木曜は夜間クラスで、仕事や学校の後、学習者はそれぞれ都合のつく時間を通して来ます。そのため普段は、学習者・ボランティア講師ともに、横の交流があまり持てません。でも今回、スピーチを聞いたり歓談したりして、なごやかな雰囲気の中、お互いをもっと知ることができたようでした。



多数の人を前に緊張のスピーチ